

就活生に聞いた「リクルーターとの接触経験」

2014年9月発行

景気回復で企業の採用意欲が高まるなか、就職活動の解禁時期が2016年度から大幅に繰り下がることで、優秀な学生を確保できないのではとの危機感が企業に広がっている。期間短縮の解決策の一つとしてリクルーター活用に取り組む企業が増えると予想される。学生側は企業がリクルーターを活用することをどう捉えているのだろうか。ディスコでは、今年就職活動を行った学生にリクルーターとの接触について調査し、その印象や就職活動への影響度合い等を分析した。

《調査概要》

調査対象：日経就職ナビ 2015 就職活動モニター
(2015年3月卒業予定の全国の大学4年生・大学院修士課程2年生)

調査時期：2014年7月1日～7日

調査方法：インターネット調査法

回答者数：1,248人

	男子	女子	合計
文系	400	325	725
理系	349	174	523
合計	749	499	1248

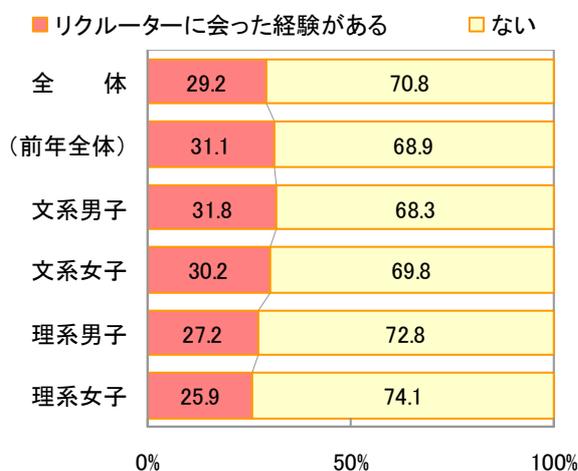
調査機関：株式会社ディスコ キャリアリサーチ

【1】リクルーターとの接触の有無

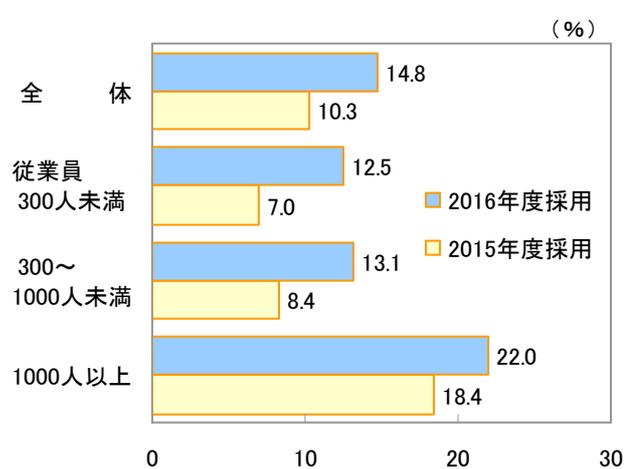
就職活動中にリクルーターとの面談経験があると回答したのは、全体の29.2%と3割弱。前年同期調査(2013年7月実施)では31.1%で、例年3割前後の学生がリクルーターとの接触経験をもつ。

一方、企業側のデータに目を向けると、「リクルーターの導入・育成に注力したい」と回答した企業の割合は、2015年度採用では10.3%だったのが、2016年度に向けて14.8%へと増加している。従業員規模別に見ると、1000人以上の大手企業で22.0%と2割を超えており、中堅・中小企業については、割合は1割台と高くないが、前年度に比べ、ともに増加傾向にある。

リクルーター面談の経験



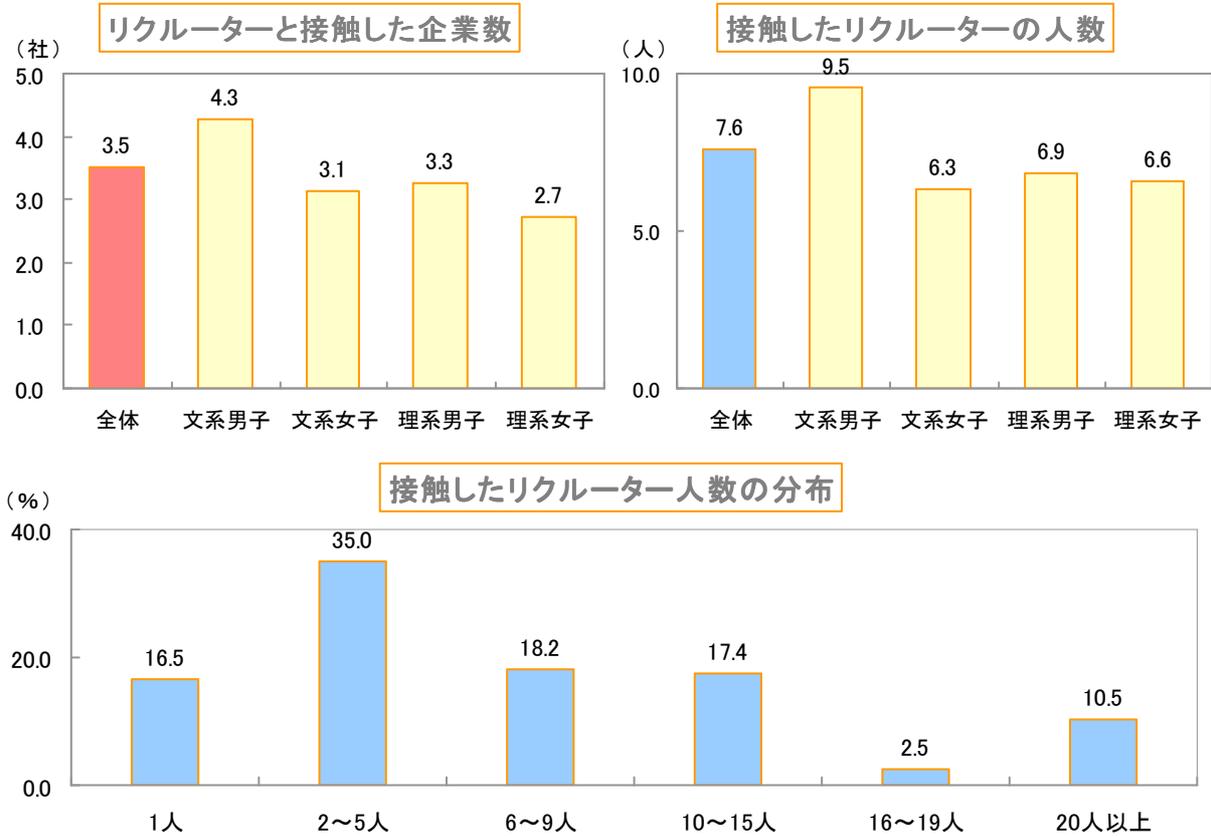
「リクルーターの導入・育成に注力したい」※



※ディスコ「新卒採用に関する企業調査」より

【2】 接触したリクルーターの数

リクルーターと接触をした学生に、その人数や企業数を尋ねた。リクルーターと接触した企業の数は一人あたり平均 3.5 社で、人数の合計は 7.6 人。人数の分布を見ると、ボリュームゾーンは「2~5人」だが（35.0%）、「20人以上」という回答が 10.5%と 1 割を超え、学生によって差が大きい。



【3】 リクルーターとの接触があった業界

リクルーターとの接触があった企業の業界をすべて選んでもらった。全体で最も多かったのは「銀行」で 37.3%と、3人に1人以上という割合。文系に限ると 53.8%と半数を超える。理系では「電子・電機」(17.9%)、「自動車・輸送用機器」(13.6%)など、メーカーが上位にきている。

リクルーターとの接触が多い業界(TOP10)

* 全 40 業界

(%)

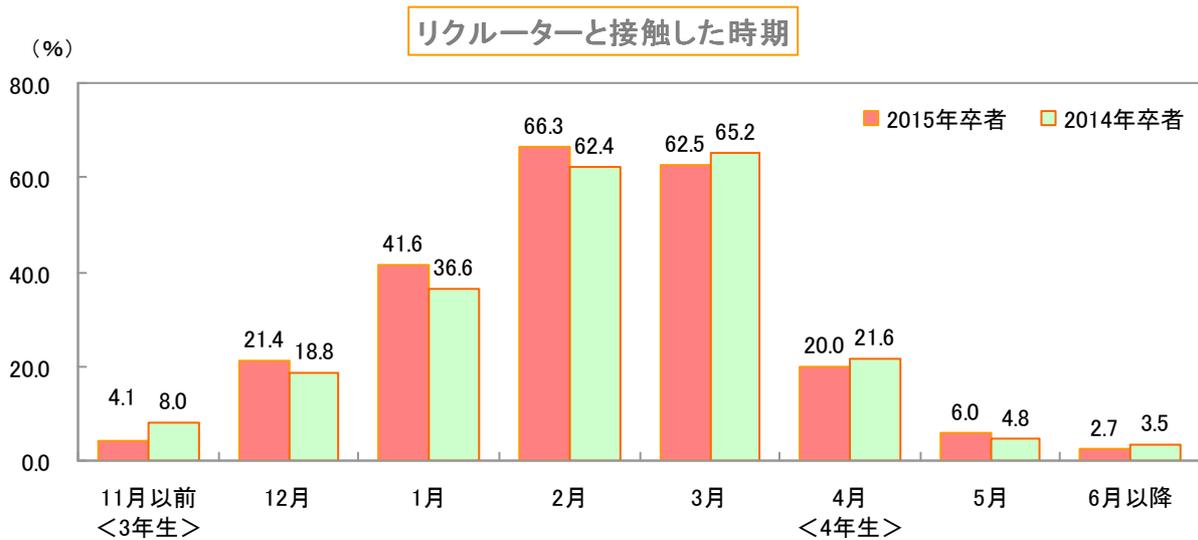
全 体		文 系		理 系	
1	銀行 37.3	1	銀行 53.8	1	電子・電機 17.9
2	自動車・輸送用機器 17.8	2	保険 24.4	2	自動車・輸送用機器 13.6
3	保険 17.5	3	自動車・輸送用機器 20.4	2	運輸・倉庫 13.6
4	電子・電機 13.7	4	鉄鋼・非鉄・金属製品 14.2	4	通信関連 11.4
5	エネルギー 11.2	5	エネルギー 12.4	5	銀行 10.7
6	運輸・倉庫 10.7	6	建設・住宅・不動産 11.1	6	エネルギー 9.3
7	鉄鋼・非鉄・金属製品 10.4	6	電子・電機 11.1	7	建設・住宅・不動産 8.6
8	建設・住宅・不動産 10.1	8	通信関連 8.9	7	素材・化学 8.6
9	通信関連 9.9	8	運輸・倉庫 8.9	9	情報・インターネットサービス 7.1
10	証券・投信・投資顧問 7.7	10	証券・投信・投資顧問 8.4	9	水産・食品 7.1

[4] リクルーターと接触した時期

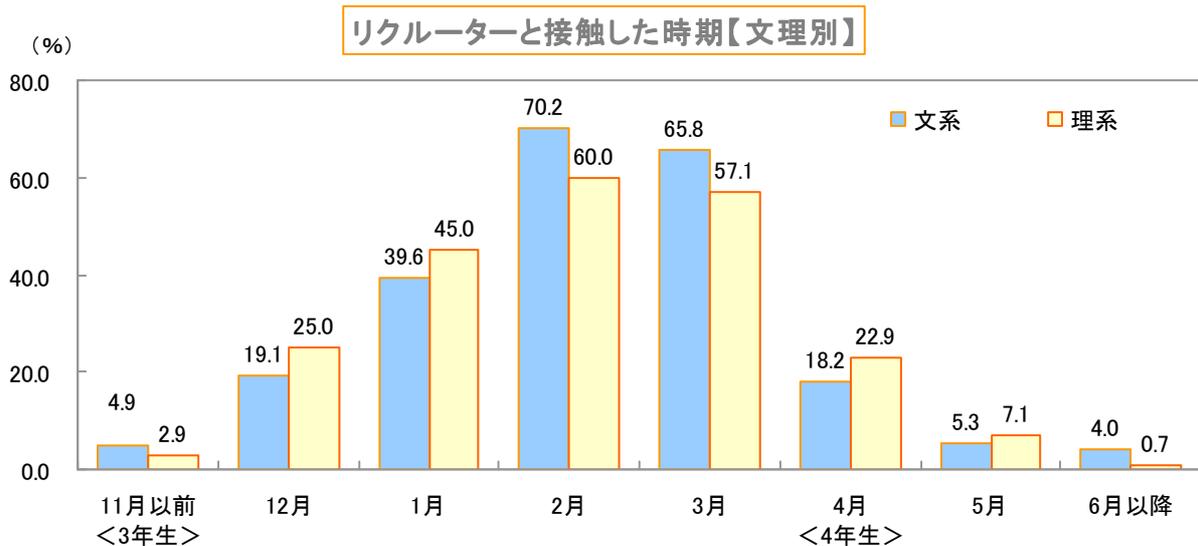
リクルーターと接触した時期（月）をすべて挙げてもらい、前年同期調査と比較した。

2015年卒者で最も多いのは「2月」（66.3%）で、「3月」も62.5%と6割を超えている。2月～3月の春休み中の接触が多いことが分かる。一方、2014年卒者もこの時期が多かったが、ピークは「3月」だった（65.2%）。また、2015年卒者は「12月」「1月」という早期の接触が増え、この1年で全体的に接触時期がやや早まったと言える。

2016年度の採用ではスケジュールが大幅に繰り下がるので、リクルーターの接触時期が実際にどの程度変化するのか、注目される。



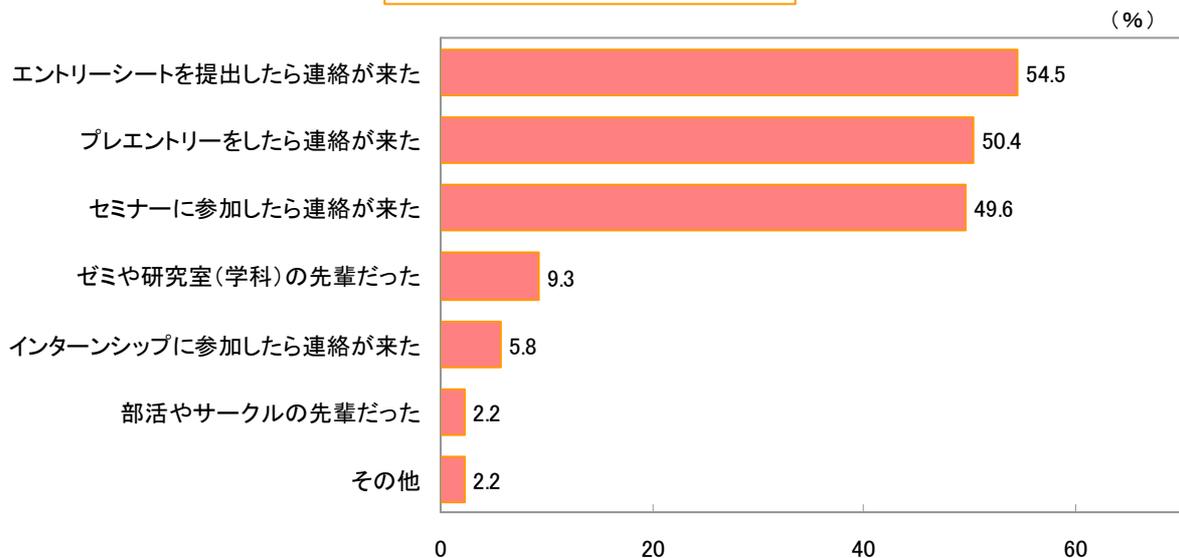
接触時期を文理別に見てみると、文系は「2月」（70.2%）、「3月」（65.8%）と、この2カ月に集中しているのに対し、理系は全体的に分散化の傾向が読み取れる。



【5】リクルーターと接触したきっかけ

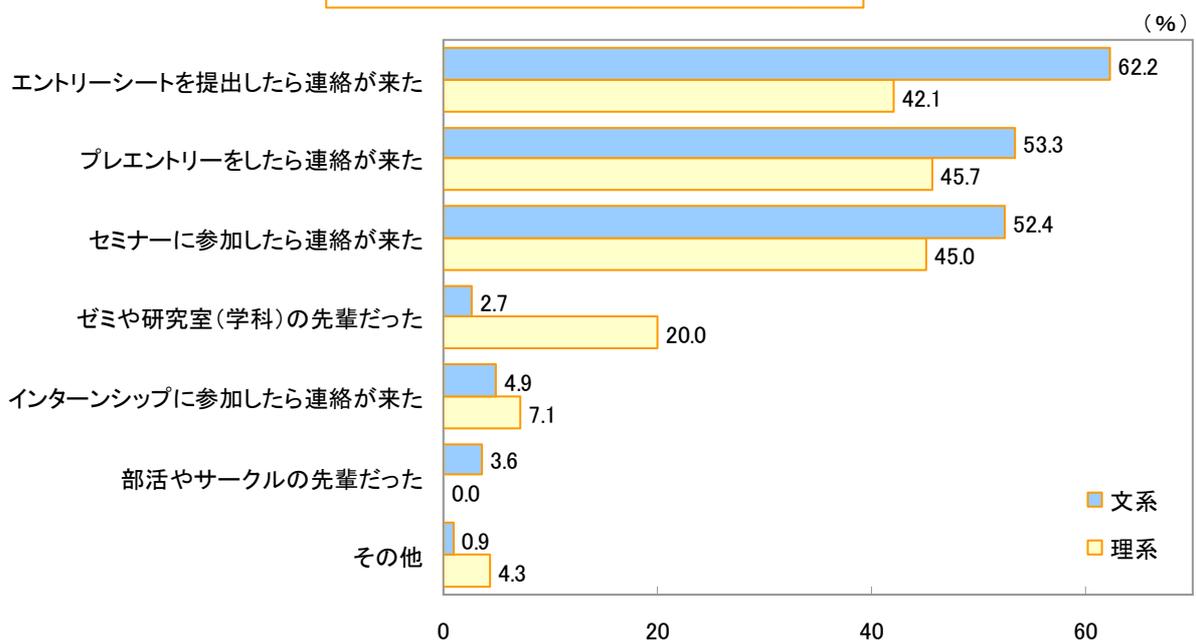
リクルーターと接触したきっかけを尋ねた。最も多いのが「エントリーシートを提出したら連絡が来た」(54.5%)で過半数に達している。他に「プレエントリーをしたら連絡が来た」も50.4%と半数を超えている。「セミナーに参加したら連絡が来た」(49.6%)が僅差で続き、この3項目が圧倒的に多い。「ゼミや研究室(学科)の先輩だった」(9.3%)、「部活やサークルの先輩だった」(2.2%)と、就職活動前からの知り合いからの連絡は少数派であることが分かる。

リクルーターと接触したきっかけ



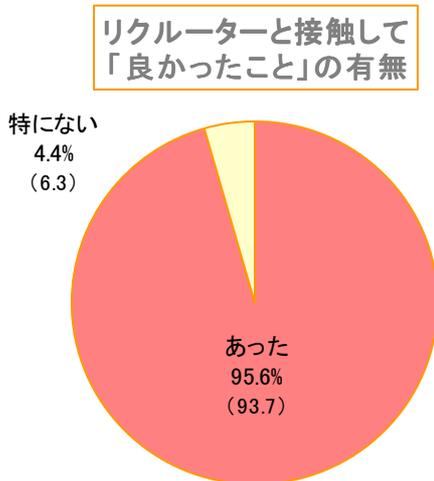
これを文理別に見てみると、文系は「エントリーシートを提出したら連絡が来た」が62.2%で最も多い。これに対し理系は「プレエントリーをしたら連絡が来た」(45.7%)、「セミナーに参加したら連絡が来た」(45.0%)の順。文系はエントリーシートを提出することで志望度がある程度担保されてから連絡が来るのに比べ、理系はプレエントリーやセミナーといったもっと早いタイミングで連絡を受けている。また、理系で特徴的なのは「ゼミや研究室(学科)の先輩だった」が20.0%と2割にのぼり、研究室の繋がりの強さがうかがえる。

リクルーターと接触したきっかけ【文理別】

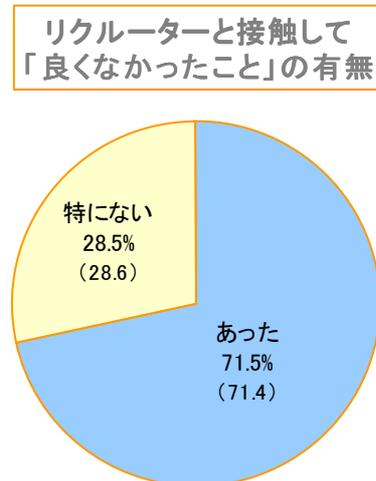


[6] リクルーターと接触して良かったこと／良くなかったこと

リクルーターと接触して良かったことがある学生は、全体の95.6%。概ね好意的に受け止められていることがうかがえる。逆に、良くなかったことがあるという学生は71.5%だった。良い面と良くない面の両面を感じている学生が多いことを示唆している。

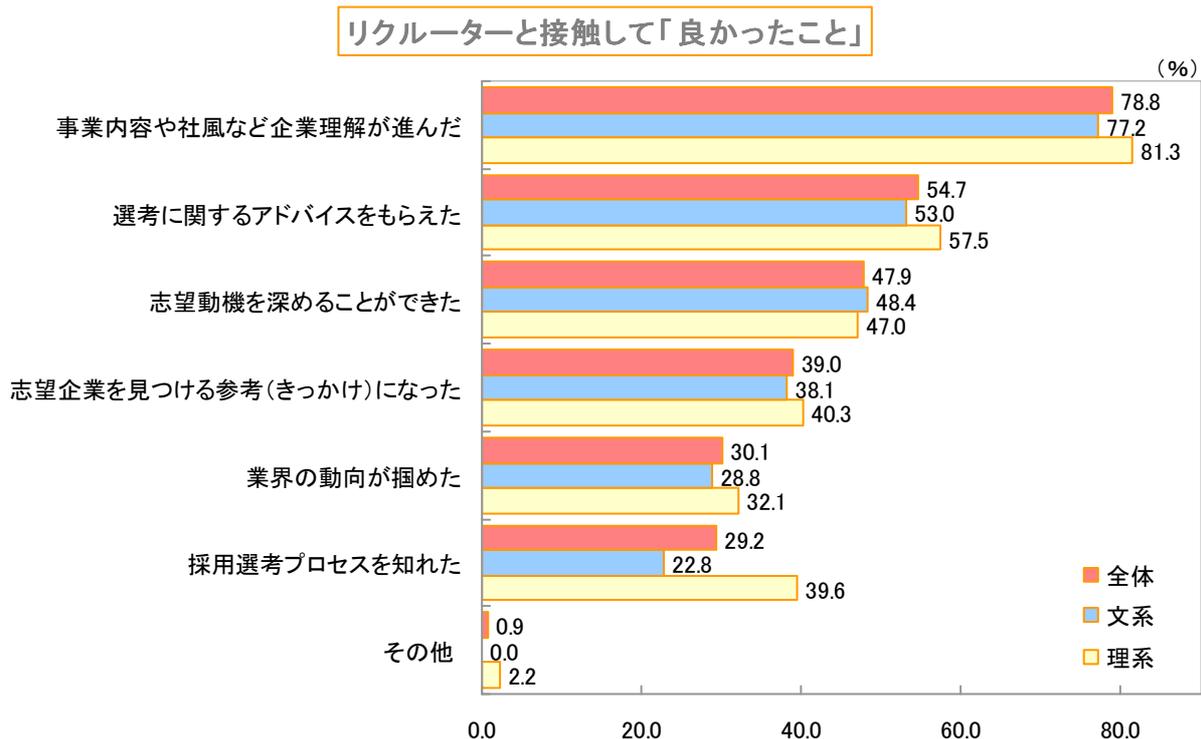


※ () 内は前年同期の数値



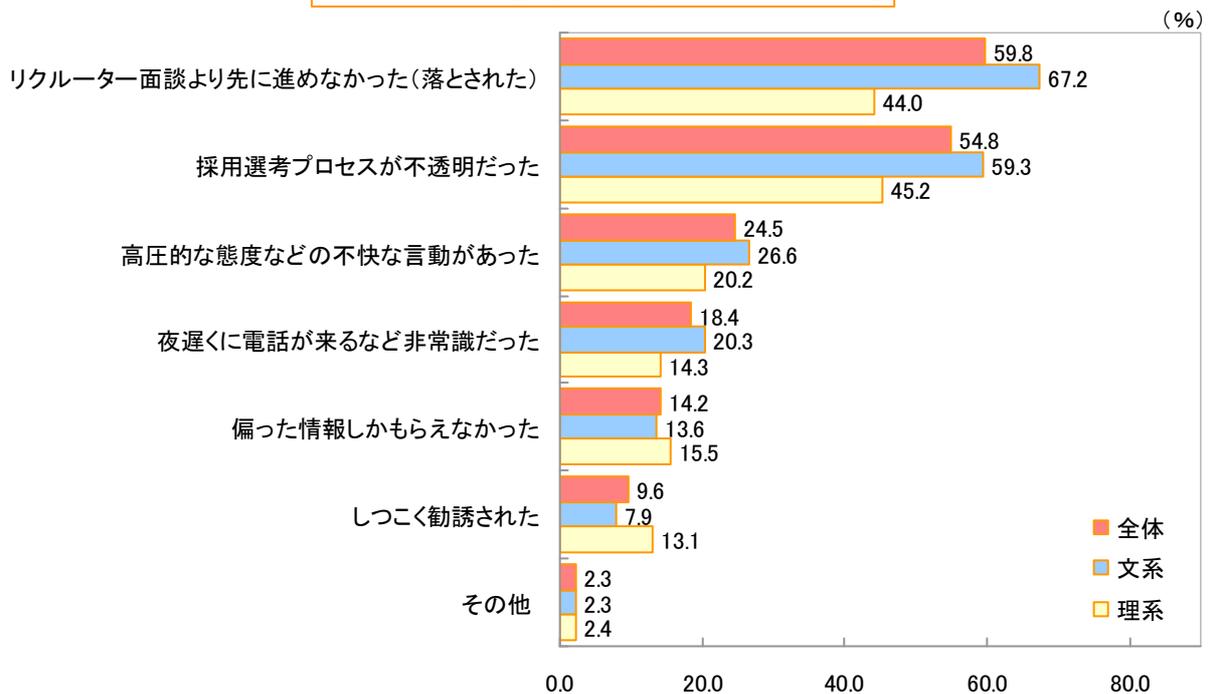
※ () 内は前年同期の数値

接触して良かったことの内容を複数回答で尋ねた。文理ともに「事業内容や社風など企業理解が進んだ」が最も多く、セミナーや会社説明会だけでは理解が不十分だった部分をリクルーターが補う役目を果たしていることがよく分かる。理系学生で目立つのは「採用選考プロセスを知れた」で39.6%と約4割にのぼる。理系学生の場合、自由応募だけでなく推薦ルートもある。どちらのルートからも応募ができたり、教授推薦や学科推薦を併用するなど、システムが複雑な企業も見られる。リクルーターが説明することで、やっと理解できたという学生も多いのではないだろうか。



リクルーターと接触して「良くなかった」ことも見てみよう。全体的に理系よりも文系の数値が高く、より不満が多いことが分かる。例えば「リクルーター面談より先に進めなかった」は理系 44.0% に対し、文系は 67.2% と 20 ポイント以上高い。また、文系は「採用選考プロセスが不透明だった」も高く、「よくわからないうちに選考され、気付いたら落とされていた」という学生が多いと推測できる。これでは納得度も低く、不満が残るのは仕方ないだろう。

リクルーターと接触して「良くなかったこと」



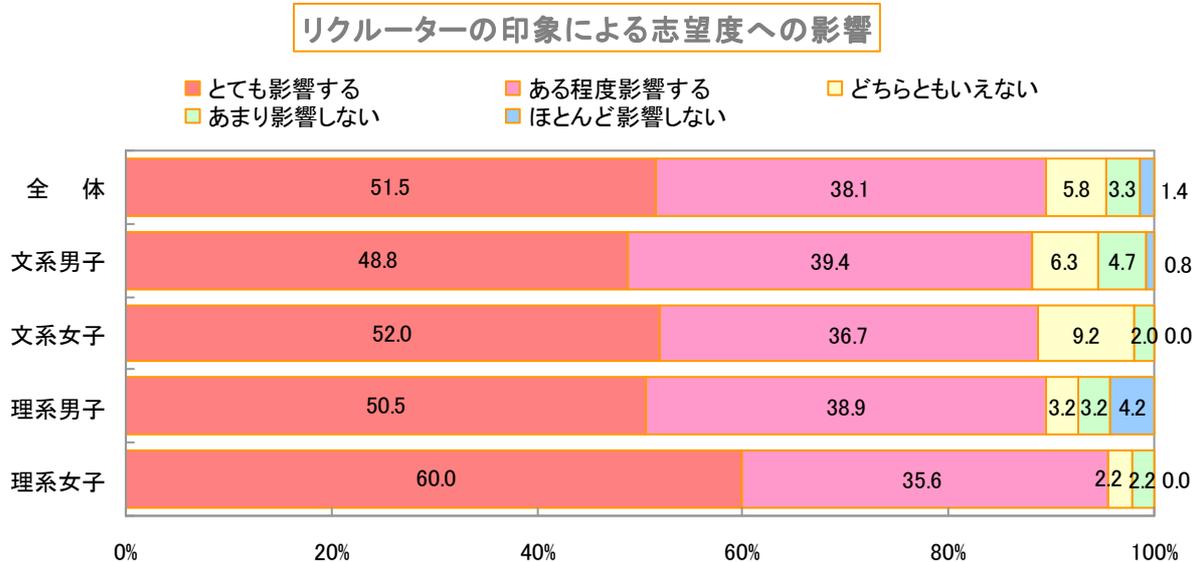
■リクルーター制度について思うこと

- 面接の練習が数多くできる点や、一回の面接で判断されない点は評価できるが、たいてい土日の実施で、企業間の調整が難しいのが難点。 <文系男子>
- 採用選考の過程があまりわからず、不安になることもあるが、大学の卒業生など共通点のある方とお話してきたので双方に効果はあると感じた。 <文系女子>
- リクルーターと会ううちに志望度があがっていくので、よかったと思う。 <文系男子>
- 個々の会社で扱いの差があるので、学生側としては対応しにくいものだと思う。 <理系女子>
- 学生にとってみれば、OB OGの多くいる大規模大学・有名大学に所属するだけで有利になり、それ以外の大学の学生は門前払いになるという点では、不公平に感じる。 <文系男子>
- 良い面・悪い面あると思うが、個人的には企業に対する理解が深まったので良かったと思う。 <文系女子>
- 現場社員の雰囲気を知ることができる点や選考のアドバイスをもらうことができる点は良いと思うが、選考プロセスが長くなりがちなのが嫌でした。 <理系男子>
- 企業の内面や研究開発の事情を深く知り、就職活動を有意義なものにする上ではとても有用な手段であると思う。 <理系男子>
- リクルーターの印象でも企業の志望度は変わる。企業側も、それを考慮して、高圧的な態度をとったりするリクルーターを選出するべきではないと感じる。 <文系女子>

[7] リクルーターの印象と志望度

リクルーターの印象は、その企業への志望度にどの程度影響するのだろうか。

全体の51.5%が「とても影響する」と回答し、「ある程度影響する」(38.1%)とあわせると89.6%と約9割が「志望度に影響がある」と回答した。この傾向は男子よりも女子にやや強く出ており、女子のほうが社員の雰囲気などに影響を受けやすいと言える。

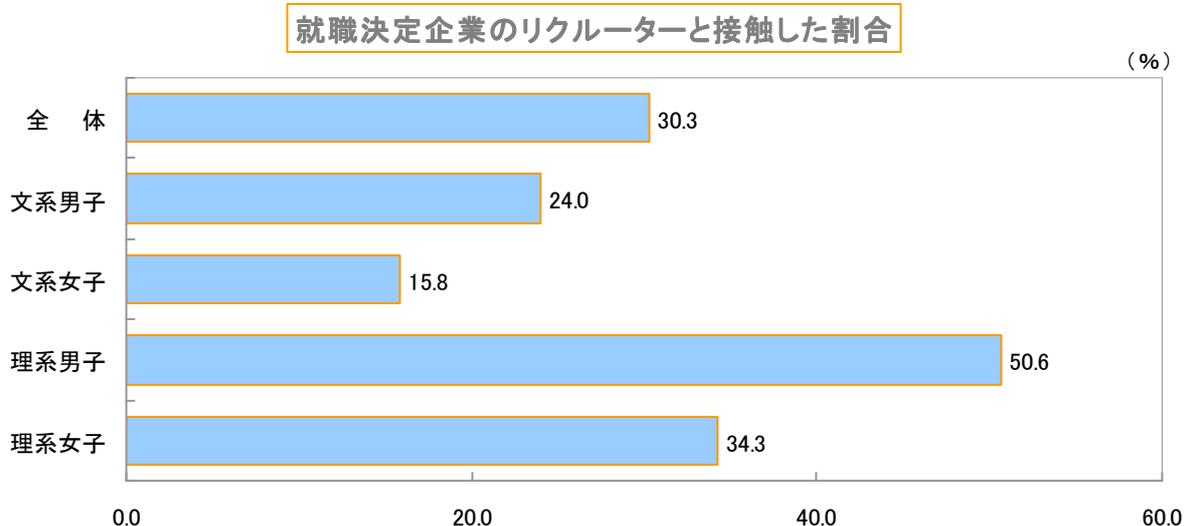


[8] 就職決定企業のリクルーター接触有無

就職先として決定した企業がリクルータールートだったという学生は、どのくらいいるのだろうか。

リクルーターとの接触経験を持つ学生のうち、調査時点で就職先を決定していた学生に尋ねたところ、30.3%が「リクルーターと接触した」と回答した。

この割合は属性による差が大きく、理系男子は50.6%と過半数がリクルーターと接触した企業に決めている。理系女子も34.3%と文系を大きく上回る。先にも触れたが、理系学生は研究室の繋がりが強い。背景にはそうしたことがあるのだろう。



※就職先が決定した学生が回答

■参考データ

リクルーターとの接触が多い大学はどこだろう。今回の調査に回答した学生が15名以上の大学を対象に、大学ごとの接触率を算出した。

1位は大阪大学の66.7%。3人に2人がリクルーターとの接触経験をもつ。京都大学も60.0%と6割にのぼる。以下、名古屋大学、東京大学と続き、国立大学、とりわけ旧帝大が上位を占める。私立大学の最上位は早稲田大学（50.0%）で、神戸大学、東北大学と同率の5位。続けて立命館大学が10位（44.4%）、慶應義塾大学が11位（38.2%）となった。

(%)

	大学名	接触率
1	大阪大学	66.7
2	京都大学	60.0
3	名古屋大学	54.1
4	東京大学	51.9
5	神戸大学	50.0
	東北大学	50.0
	早稲田大学	50.0
8	九州大学	48.5
9	北海道大学	46.2
10	立命館大学	44.4
11	慶應義塾大学	38.2
12	広島大学	36.8
13	明治大学	34.6
14	法政大学	31.3
15	東京理科大学	29.4
16	中央大学	29.2
17	関西大学	26.7
18	同志社大学	26.3
19	関西学院大学	20.0
20	日本大学	19.2

* 回答者が15名以上の大学を抽出し、回答者に占めるリクルーター接触経験を有する学生の割合（接触率）を大学ごとに算出。